



# まいあみ希望通信

メール:sougousenryaku@gmail.com : **海野隆 阿見町**で検索 VOL1-5

## 25年3月議会一般質問

### まい・あみクーポン券廃止は再考し継続すべきである

3月の議会は21日まで開催され全議案可決して閉会しました。私は一般会計予算に反対、その他の議案に賛成をしました。反対した理由は「プレミアム付き商品券補助廃止」の部分です。今回はこれに関する私の一般質問についてご報告いたします。



**海野**：3年間続けてきた「まい・あみクーポン券」が来年度は廃止になります。消費者団体の方々からは、「まい・あみクーポン券、

なくなっちゃうんですね」と残念そうに言われました。プレミアム付き商品券による経済効果、波及効果が生まれることは、すでに明らかになっています。新たな商工業振興政策の目玉をつくらぬまま、地元商業への購買意欲を増し地域経済活性化に寄与しているプレミアム付き商品券(まい・あみクーポン券)補助を廃止することは再考すべきです。

**町長**：プレミアム付き商品券については、商工業者の約半数がプラスになっていないと回答し、消費者のアンケートでは購入者は全世帯の15%前後にとどまっている。参加店舗も15%が休止すると回答している。商工会も事業の廃止を了解した。

**海野**：参加商店の過半数がプラス評価をし、

85%が継続して実施してほしいと回答し、消費者もクーポン券の購入で今まで行ったことのない地元商店に行くようになったというアンケートがありながら、なぜ廃止という結論が出たのか理解に苦しみます。

**生活産業部長**：23年度利用実態結果を見ると商品券の換金額はガソリン石油店及び大型店舗に偏っている。この2業種で全体の51%を占めている。補助事業として適正なものではない。商業全体の振興に貢献したとは言えない。事業仕分け結果も廃止の後押しをした。

**海野**：実施主体である商工会も消費者の提案を受けて積極的に改善しており偏りは劇的に解消しています。現在ではバランスよく参加店舗全体で使用されてきています。事業仕分けでも町民判定員は町改善、判定員の結果も再検討でした。廃止ありきでいきなりバツサリと廃止するというような粗っぽい行政運営は、今後の行政と住民との関係を危うくします。関係者の納得や説得が重要です。今後、事業継続の再検討をすべきです。

## その他の質問事項

- あみ大使及び観光大使である「まい・あみ・アンバサダー」の現状と今後の活動の在り方について、
- 阿見町の放射能除染の進み具合と指定廃棄物の保管状況、
- 職員退職金及び給与改定について時期と影響について



←新設された「さくら保育園」・施設・先生方ともに素晴らしい施設です。

# 道の駅整備推進会議



視察した道の駅「どまんなか・たぬま」

●先日、平成25年2月22日阿見町道の駅整備推進会議が開催されました。阿見町の道の駅整備の現在の段階は、オープンまでの最初の段階にあたります。ここからが、きわめて重要で大きな政策判断を要する段階になります。先に進むのか、断念するのか、ある程度の感触をつかむ段階になるからです。

●天田町長が就任した平成22年8月に、役場庁舎内に道の駅庁内検討会議を立ち上げ、庁内の体制構築や各課の役割整理、今後の進め方などについて検討を開始しました。

●翌、平成23年5月に阿見町道の駅準備検討委員会が商工会等の関係者14名の委員で設置され、7月に第1回目の委員会が開催された後、見学会やワークショップも含めて7回の会議を経て、基本構想案の叩き台を作成しました。

●それを受けて次の段階である基本構想を作成する、議長、副議長、各常任委員長、商工会、JA、観光協会、茨城県、消費者、学識等の19人からなる道の駅整備推進会議が平成24年度から立ち上がり、7月19日に第一回目を開催し先進地視察1回を含めて5回の検討を重ね、平成25年2月22日の最終回で基本構想を承認するとともに道の駅整備推進に関する提言書が町長に提出されました。

●基本構想では、4カ所の候補地、運営主体のバリエーションが示されましたが、次の段階である計画立案へ進むためには少し不安が

残るような印象を受けました。つまり、進めるか、断念するか、判断の材料としては充分でないのではないかと思います。

●私は、この整備推進会議を何回か傍聴して来ましたが、阿見町の経済活性化や観光、交流人口を飛躍的に増加しようという熱気、どうしても道の駅を実現しようという熱意というものが少し弱いのではないかと感じるが多かったような気がします。

●承認された基本構想には、「構想段階では、整備の目的や意義を整理することを通じて、地域の課題解決に向けた道の駅の役割を設定し、関係する各主体が参加する検討組織を立ち上げ、ここでの協働作業を通じて、検討が深められるとともに、その後の運営組織へと発展する可能性を持つ」と指摘しています。

●提出された道の駅整備推進に関する提言書を拝見しますと、「プロデュースできる優秀な人材を得ることが不可欠だ」と強調しています。しかし、地域全体、関係者に「自らが作りあげる」という決意や熱気が必要なことは言うまでもありません。そのような提言書になっていたかどうかは問題です。運営の主体を決めて運営の権限を大幅に与え、失敗することも含めて、最終的な責任を町が引き受けるということがなければ、優秀な人材を得ることも、成功も覚束ないのではないかと思います。

## みんなの住民相談所



●行政への苦情や提案、議会や議員への政策提言等もお気軽に聞かせて下さい。●道路や側溝・街灯、隣の空き家、近所の空地の雑草、福祉施設への入所など何でもご相談ください。私にできることは、相談者のかわりに役場に行ったり、あるいは同行して一緒に話をし、先方の話を聞くくらいのことです。無理を通すことはできませんが、間に入ることで、なにがしら解決への道筋がみえるのであれば、喜んでどこへでも行きます。